

国立循環器病研究センター病院倫理委員会(第31回)議事要旨

日時 令和3年 1月14日(木) 17:30~18:20

場所 研究所棟4月階 第15会議室

委員 野口委員長、細田委員、福冨委員、市川委員、高田委員、小田委員、近藤委員代理(森医事室長)、長松委員、巽委員、土井委員、塩谷委員、畑中委員(外部有識者)(12名)
(欠席 吉松委員、藤本康委員、藤本啓委員、田邊委員、片岡委員、福峯委員)

オブザーバー 石上研究医療課長

事務局 會澤(書記)、萬谷、福本

説明者 望月医師、福冨部長、米山専門修練医、岡田看護師長、畦地医師

議題

1. 申請「急性心筋梗塞を背景とした重症心不全患者に対する補助循環用ポンプカテーテル(インペラ5.0)不具合時に本機器を再装着しないことの適否について」

申請者: 移植医療部 医師 望月宏樹

審議事項: 終末期医療

審議結果: 助言

条件や具体的助言、理由: 心臓移植を目指さない場合は補助循環機器の再装着の医学的適応はない。予後が限られるなら抜去も不要である。

申請概要: 40歳代患者は重度急性心筋梗塞のため体外式補助人工心臓を装着したが、家族サポートの点で植込型補助人工心臓を装着して心臓移植待機することは困難であった。また、体外式補助人工心臓を装着して入院しながら4-5年間の移植待機をすることも体力的精神的に無理とのことであった。そのため補助人工心臓から離脱するリスクを十分説明したうえ本人の希望によりインペラ5.0への変更手術を行い、その後インペラ離脱を試みてきたが、離脱後に強心薬のみで生命維持できる可能性は低い状況にある。インペラの想定使用期間を超えているため、近々不具合が生じると予想される。患者本人は補助人工心臓やインペラの再装着は希望していないため、再装着しないことは妥当か。

2. その他

- ・ 臨床倫理教育研修「患者さんの権利と臨床倫理」(2/10(水) 17:30~18:30 エントランス棟講堂)について周知いただきたい。

以上